

## 【刈谷市】

### 1人1台端末の利活用に係る計画

#### 1 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

子どもたちには、これからの変化の激しい時代を、周囲と手を携え、前向きに切り開いていく能力「生きる力」が求められている。そこで、本市では、「共に生き、未来を創造する子ども」に必要な「生きる力」を育むという観点から、「知」「徳」「体」の3つを、刈谷という「礎」のなかで、バランスよく伸ばさせ続けるとともに、全教職員が目目の前の一人ひとりの子どもに寄り添い、支える姿勢を大切にすることを重視している。各学校においては、教員一人ひとりが重点項目の具現化と使命感、責任感、誇りをもって指導できるよう資質向上に努めている。

令和3年1月に中央教育審議会から出された「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」では、これからの「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実のために、ICTの活用は必要不可欠であると述べられており、各学校に整備したICT環境をどのように有効活用していくかが重要となっている。

本市においては、指導内容に応じた、タブレット、電子黒板などICT機器の効果的な活用により、「学力向上」及び「不登校対策」の解決を図るとともに、変化が激しい予測困難な時代を生きていく子どもたちにとって必要不可欠な「情報活用能力」を育み、個別最適な学びを実現することで、「共に生き、未来を創造する子ども」の育成を目指している。

#### 2 GIGA第1期の総括

本市は、令和2年度中に子どもの1人1台タブレット端末及び校内LAN環境などを整備し、周辺機器なども含めたICT環境の整備が完了している。さらに、ネットワークについては、ネットワークアセスメントを実施して不具合の原因を逐次明らかにし、ネットワーク環境改善に向けた対応を行ってきた。

また、ICT環境の整備に加え、教員の研修の充実を図り、教員のICT活用指導力の向上に計画的・戦力的に努めてきており、これらの取組を通して、本市における教員のICT活用指導力は年々向上してきていることから、今後もこれらの取組の継続が望まれる。

しかし、一方で、授業におけるICT活用や校務DXの推進状況については、学校間での取組の差が生じてきている。

そこで、教員のICT活用指導力のさらなる向上を目指し、全ての学校が授業や校務において積極的にICTの活用を図ることができるよう、これまでの研修などの取組を更に充実させる。

さらに、先進的にICTを活用している学校の取組や校務DXの改善について学び合う機会を活用し、子どもの発達段階に応じた効果的なICT活用の在り方について研究を深め、本市が抱える課題解決につなげていく。

### **3 1人1台端末の利活用方策**

本市では、令和6年度及び7年度に端末の更新を計画しており、更新に当たり各学校及び関係課が情報共有を図りながら更新作業を進めている。より効率的な運用が期待できるOSの選定を行うなど、ICT環境の充実に図りつつ以下の方策で1人1台端末の効果的な利活用を推進する。

#### **(1) 1人1台端末の積極的な活用**

1人1台端末の利活用を促進するためには、各校の教員がGIGAスクール構想の趣旨や中央教育審議会答申の理解を深め、自身のICT活用指導力を向上させていくことが大切だと考える。

本市では、これまでも学校に対し、授業や校務におけるICT活用に関する研修を実施している。今後は、各学校のニーズや課題に応じた研修を実施するとともに、校務支援システムなどによる情報の提供を行うことで、全ての教員へ効果的な利活用についての情報共有を図る。

また、教員や子どもたちに対して、各校を巡回し指導にあたっている情報教育アドバイザーによる支援や、ICT支援員によるサポートを継続していく。

#### **(2) 個別最適・協働的な学びの充実**

本市では、各教科で育成すべき資質・能力などを把握した上で、ICTを主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に生かすとともに、従来は伸ばせなかった資質・能力の育成やこれまでできなかった学習活動を実施可能とするために、オンラインドリルソフトや授業支援ソフト、デジタル教科書など、ソフトウェアの整備を行ってきた。各校において、これらのソフトウェアを活用した授業改善が推進されたことにより、教員のICT活用指導力が向上するとともに、子どもが自ら課題を見つけ、情報を収集し、整理分類をしながら考えをまとめ解決するといった課題解決能力も着実に向上している。

今後は、個別最適な学びと協働的な学びをより一層充実させていかなければならない。子ども一人ひとりがオンラインドリルソフトを用いて、自分のペースに合わせて学習に取り組む学習、授業支援ソフトやICT機器を活用して対話的に学ぶ授業などが当たり前となるよう、教育委員会として、先進的な取組についての情報発信・研修会の実施・授業づくりへの参加などを積極的に行っていく。

#### **(3) 全ての子どもへの学びの保障**

本市では、オンラインドリルソフトの動画教材を整備することで、子どもが自分のペースで学習を進められるようにしたり、教室で行っている授業をオンライン配信したりすることで、子どもの学びの保障を図っている。

また、外国籍の子ども、障害のある子どもなど、特別な支援を要する子どもへの学びの保障としてデジタル教科書や授業支援ソフトが有効だと考える。これらのソフトウェアを十分に活用し、切れ目のない学びを保障していく。